

IFRS-AC 会議(2011 年 10 月)出席報告

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

参与・教育第二企画部長

金子 誠一

10 月 10 日、11 日の両日、ロンドンにおいて開催された国際財務報告基準(IFRS)財団の IFRS 諮問会議(IFRS-AC)*の概要について下記のとおり報告します。

*国際会計基準審議会(IASB)に対し、検討事項やその優先順位をアドバイスするための組織。従来は基準諮問会議(SAC)と呼ばれていたが、昨年 4 月に名称変更した。委員は 45 名強。日本からは証券アナリスト協会代表の報告者(金子)に加え、経団連代表の米家正三伊藤忠商事常勤監査役が委員。他に金融庁から 1 名がオブザーバー(発言権あり)で参加。IFRS-AC 会議は年に 3 回、ロンドンで開催される。今回、金融庁からは園田周企業開示課課長補佐が出席。

記

1. 議事一覧

番号	日時	議事
(1)	10 日 9:00-9:45	IASB の活動報告
(2)	同 9:45-10:45	IFRS-IC レビュー
(3)	同 11:00-12:00	DPOC
(4)	同 13:00-13:50	戦略レビュー
(5)	同 13:50-16:00	IFRS-AC のプロファイル高揚
(6)	同 16:00-16:45	Agenda Consultation
(7)	同 16:45-17:25	概念フレームワークへの取り組み
(8)	11 日 8:00-10:15	収益認識 (教育セッション・分科会)
(9)	同 10:15-12:00	保険
(10)	同 17:10-17:40	収益認識 (全体会議)
(11)	同 13:30-14:15	XBRL
(12)	同 14:15-15:00	世銀のレビュー
(13)	同 15:00-15:30	IFRS のブランド
(14)	同 15:30-16:30	IFRSF の教育活動

*会議資料は下記から入手できる。

<http://www.ifrs.org/Meetings/IFRS+Advisory+Council+October+2011.htm>

*会議の録音は下記から入手できる。

<http://www.ifrs.org/The+organisation/Advisory+bodies/The+SAC/SAC+meetings/Meeting+audio+playback/audio.htm>

2. 議事概要

上記議事一覧に従い、報告者(金子)の発言要旨にも触れながら議事概要を紹介する。

(1) IASB の活動報告

フーガーホースト IASB 議長より最近の基準開発動向について説明。金融商品の減損については、色々な案を作ってもいつも銀行から実務的に無理だと言われてフラストレーションを感じていると愚痴っていた。

(2) IFRS-IC レビュー

トラスティが行っている IFRS-IC (解釈指針委員会) のレビューについて説明の後、議論を行った。IFRS-IC が各国に固有の事情まで検討の対象とするかどうかについて意見が分かれた。IFRS-IC は既存の基準の解釈を行うのだから、委員は現在 IFRS を採用している国の代表者に限るべきという意見が出たので次の発言をした：資料の A16 項にもそうした見方が紹介されているが、ちょっと近視眼的すぎるのではないか。現在採用していなくても IFRS を改善することに意欲を燃やしている国はある。そうした国の代表者を受け入れるのは将来 IFRS が全世界で採用されるために必要なステップである。

(3) DPOC (Due Process Oversight Committee)

トラスティの DPOC 委員長 Sidwell 氏から同委員会が作成した、Due Process 監視のための手続書(protocol)について説明あり。一般的に Protocol を評価・支持する意見が多かった。戦略レビューについての当協会意見書の主張¹に従い、次の発言をした：Protocol は大変良くできていると思う。ただし、当協会の企業会計研究会は IASB の Due Process には問題があると考えている。問題とは討議資料、公開草案、最終的な基準の間のギャップが大きすぎることだ。公開草案と基準がかけ離れるので、公開草案を 2 度出すケースも生じている。こうした事態が続くと投資家は討議資料や公開草案に関心を持たなくなる。問題の原因は IASB が基準開発の各段階で関係者の意見聴取を十分に行わないことだ。Protocol でも意見聴取が必須(required)になっているのは、プロジェクト計画段階だけだ。これを改訂し、討議資料・公開草案(技術的な改変を除く)段階でも意見聴取を必須とするよう提案する。

(4) 戦略レビュー

IFRSF の Seidenstein 氏および金融庁の園田氏から、それぞれの戦略レビューの現況について説明あり。両レビューを統合してほしいという要望があった。来年 2 月の IFRS-AC 会議で両レビューを公開前に検討することになった。

今回の会議に SEC からは主任会計士の Jim Kroeker 氏が出席しており、SEC の現況について次の説明があった：戦略レビューが検討されている IFRSF および Monitoring Board のガバナンス問題がはっきりすれば、SEC の IFRS 採用判断が容易になる。5 月の SEC スタッフペーパーで提案した Condorsement Approach とは FASB が IFRS との間に新たな差異を作らないことだと理解している。SEC が年内に①米国基準と IFRS との相違点、②IFRS で実際に財務報告を行っている会社間の差異、③IFRS 採用に向けたワークプランの現況、の 3 レポートを年内に出す予定は変更ない。

¹ <http://www.saa.or.jp/account/account/pdf/ikensho110725ja.pdf> 2 頁 4 項参照。

(5) IFRS-AC のプロフィール高揚

IFRS-AC ではパフォーマンスの自己評価を行ってきたが、これを踏まえてどうしたらより効果的に機能できるかを、分科会での議論を含めて検討した。Web の活用、議事内容の公開等により双方向のコミュニケーションを活発にしたいというのがコンセンサスであった。モニタリング・ボードとの関係については間接的なものとし、トラスティおよび IASB へのアドバイスに注力すべきという点でも意見は一致した。

(6) Agenda Consultation

IASB が行おうとしている今後の Agenda 検討について、フーガーホースト議長の説明の後、議論。既存のプロジェクトを早く片付けてほしいという意見が多かった。中国の委員が IFRS9 号が OCI で評価する株式を売却した場合にリサイクルリングを禁止しているのはおかしいという意見を述べていた。

(7) 概念フレームワークへの取り組み

フランスの委員（基準設定者）が準備したメモ（概念フレームワークの簡略版を作るべきだという極端な意見）をベースに議論。フーガーホースト議長が純利益や OCI は概念フレームワークの問題であり、これを本格的に議論すると時間がかかるので、早く結論をだせる仕組みを考えたいと発言していた。

(8) (10) 収益認識

IASB が近く再公開草案を出す予定の収益認識プロジェクトについて、教育セッション、分科会を交えて検討。再公開草案については、概ね支持する意見が多かったが、①個別産業の意見を聞くこと、②より詳細なガイダンスを出すこと、③フィールドテストを行うことの必要性を指摘する意見が多かった。

(9) 保険

IASB と FASB のジョイントプロジェクトであるが、IASB は既に公開草案を出しているのに、FASB は討議資料にとどまり、また両ボードの見解も大きく割れている案件。IASB は一つのモデルを提案しているのに対し、FASB は短期契約と長期契約の二つのモデルを使う提案をしている。保険業界は一般にビジネスモデルの相違を勘案するよう要求しており、FASB 提案の方に親和性を感じている模様。アナリストの意見も一般に北米のアナリストは FASB 支持、欧州は IASB 支持と言われている。IASB が FASB 提案と一本化するためには、再公開草案を出す必要があるが、この場合、基準化まで 3 年はかかると言われており、ここ一両年に IFRS を採用した諸国のことを勘案するとそこまで伸ばせるかが悩みの種となっている。

当セッションには FASB の Siegel 理事も参加。監査法人デロイトの保険担当者から上記のような説明の後、議論に移ったが保険業界を代表する委員から、①ビジネスモデルの相違を認める、②保険負債は資産の期待収益率で割り引く、③資産負債の変動は OCI で認識することを要求する意見が出た。EFRAG（EU に IFRS 採否をアドバイスする機関）の委員から、IASB は全てを再公開するのではなく、FASB との相違部分だけを取り上げることによって時間を短縮できるのではないかという意見を述べて注目された。

報告者は次のコメントをした：2000 年代初めまで 30 年近く日本の生保会社に勤務した

が、この時、業界は文字通り崩壊し、終戦直後に設立された 20 社のうち、今日までそのまま生き延びているのは 5 社ほどである。この理由は多々あるが、古風な会計基準によって負債金利が 6%なのに国債利回りが 2%にすぎないという巨大な逆ザヤがもたらす影響の認識が遅れたのも大きな理由のひとつであった。もし、当時に現在提案されている基準を用いていたらより多くの会社が生き延びただろう。この意味で、両ボードは自信を持ってプロジェクトを進めてほしい。ただし、業界 OB としては、負債の割引率に期待収益率を用いること、および資産負債の変動は OCI で認識することは、保険会社のビジネスによりフィットするものとする。現在の提案自体が革命的なのだから、両ボードは測定および表示については妥協しても良いのではないか。

(11) XBRL

IASB の XBRL 開発状況の説明。投資家の XBRL に対する期待は分かれており、CFA 協会は近くサーベイをする予定とのこと。

(12) 世銀のレビュー (13) IFRS のブランド

世銀と IMF が IFRS の適用状況を調査したところ、多くの不一致が見つかった。「IFRS のブランド」とは、IFRS 適用の一貫性を含め IFRS を健全に育てていくというテーマで 6 月の会議で議論を行ったもの。IFRS-AC としてはトラスティとともに今後とも適用の一貫性を注視していくこととした。

(14) IFRSF の教育活動

担当者から IFRS 教育プログラムの進展状況について説明あり。「IASB 理事会の概要を伝えるポッドキャストは情報価値が高いが、英語を母国語にしない人には全部理解するのは難しいので、事後でいいからスクリプトを公開してはどうか」と発言したら、「出演者にゆっくり話すよう良く言うておく」といなされてしまった。

以 上